

# ご家庭で防げる火災

～小さな電池から大きな被害に～

## ⚠ 家庭内のリチウムイオン電池品に注意!

～身近な場所に潜む火災リスク～



コードレス  
掃除機



スマートフォン  
モバイルバッテリー



電気カミソリ  
電動歯ブラシ



ノートパソコン  
携帯型扇風機

普段から取り扱いに注意しましょう

リチウムイオン電池は私たちの生活に欠かせない多くの機器に使われています。

小型で便利なリチウムイオン電池も取り扱いを間違えると**発火**の危険があります。



## リチウムイオン電池

近年火災原因として増加が著しいのが、モバイルバッテリーのように**繰り返し使える充電式電池**です。以下のような火災事例があります。

### ▶▶ 電池を捨てる際に、適切に処理せず発火

リチウムイオン電池では、電池を処分する際に絶縁テープなどで絶縁処理をしないと、電池同士が接触により放電して発火する場合があります。



### ▶▶ 暖房機器で暖められ、内部に熱がこもり発火

リチウムイオン電池を暖房機器近くに置くなどして暖めると、内部に熱がこもり電池を損傷させ発火する場合があります。



### ▶▶ 水に落としたことによる発火

洗面所などで水に水没させた場合、内側に水がしみ込み、異常が生じ、通電時などに内部でショートして発火する場合があります。



### ▶▶ 落下による発火

落下などにより、大きな衝撃が加わると、変形や電池内部の損傷により、発火する場合があります。



### ▶▶ 低温下で充電したために発火

低温下での電池の充電は、電池に損傷を与える恐れがあり、発火に至る可能性があります。



## 火災予防対策とまとめ

充電式電池は、説明書をしっかり確認し使用方法を守るとともに、電池をぶついたり、濡らすなどしてしまった時は、電池に異常がないかしっかり確認し、電池が膨らむなど少しでも異常があれば、使用をやめましょう。充電式電池は近年使用が増え、それに伴い火災件数も増えています。原因は様々で、使用方法の不備や改造、製品の不良などがあります。PSEマークが表示されているかなどを確認し、一定の安全が確保されているものを使用し、火災を起こさないようにしましょう。

# もし、リチウムイオン電池から出火したら

## ○絶対に近づかない

火花や煙が激しく出ている場合は、爆発の危険があるため**近寄らず**、安全な距離を保ちます。

## ○火花が収まったら初期消火

勢いが落ち着いたら、消火器や**大量の水で消火**を試みます。可能であれば水没させることで再発火を防げます。



## ○すぐに119番通報

自力での消火が難しい場合や、煙が広がっている場合はすぐに**消防へ通報**して下さい。



住宅における電気火災の原因と予防対策  
映像資料（総務省消防庁）



# 「分ける」が「守る」につながる!!

## クリンクルはくいからのお願い

- リチウムイオン電池**が使用されている、モバイルバッテリーや携帯扇風機などは絶対に「燃えるごみ」や「燃えないごみ」に捨てないでください。
- ごみの出し方については、製品等の状況（取り外しできるか等）に合わせて「**小型家電**」または「**水銀使用物**」に出してください。

リチウムイオン電池は衝撃などで発火するおそれがあります。ごみ処理施設が火災になるとごみの受け入れができなくなります。



## リチウムイオン電池の正しい分別をお願いします。

羽咋郡市広域圏事務組合消防本部 ☎0767-22-0089

羽咋郡市広域圏事務組合環境保全課 ☎0767-27-1153

羽咋市生活安全課 ☎0767-22-7137

宝達志水町環境安全課 ☎0767-29-8140

志賀町環境安全課 ☎0767-32-9321



ごみの出し方・分け方  
減らし方はこちら